

活動報告

団体名	レスキューストックヤード
活動名	避難所および在宅避難者の生活再建を支えるコミュニティ支援事業
活動期間	2019/10/01～2021/3/31
活動の成果	<p>自主避難所となった「豊野北公民館」は、人的・物的行政支援が一切入っていない上、全世帯が要配慮者であり、災ハイリスクな状況であった。そこで、トイレ・寝床・食事・衛生環境の改善と共に、子ども世帯用スペースの確保や、高齢者の自立支援プログラム等を実施し、全ての住民が一人も欠けることなく退所を迎えることができた豊野区はもともと水害前から、福祉のまちづくりが盛んで、住民が主体的に活動する土壌はあったが、町の7割が被災したことで、一時的に地域のコミュニティ力が低下した。しかし、これを補完する存在として、①豊野区長が外部支援に寛容であったこと②長野県NPOセンター主催の「情報共有会議」で支援者を募ることができたこと③地区内に、復興支援に積極的に関わりたいと願う福祉施設や専修学校、キーパーソンとなる地元ボランティアが存在し、当法人とこれらの方々の橋渡し役として、市社協の地区担当者にご尽力頂いたことなど、あらゆる要因が重なり、最終的には、住民主体の日常の活動へ無理なくシフトチェンジできたことが一番の成果であった。間接的ではあったが、「みふね復興米」をきっかけにして、被災地同士をつなぎ、物を届けることで、被災者・支援者という枠を超えた関係性が構築できたこと、また地域支え合いセンター生活支援スタッフ訪問時の、話のきっかけに役立てて頂いたこと、個別訪問という形をとることで、コロナ禍であっても支援を継続することができたことも成果であった。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>コロナの影響で、活動期間および、活動内容の一部変更を余儀なくされましたが、柔軟に対応していただくことができ、心から感謝申し上げます。皆様から頂いたご寄付のおかげで、災害関連死や重篤な健康被害、長きにわたる生活再建の過程で生じる、孤立感や孤独感を軽減するための、支援プログラムを展開することができました。また、これらの活動が地元の皆さんの手によって、今も継続されていることは、特筆すべき点だと思います。被災された方々を守られるだけの存在にせず、地域の皆さんが本来持つ、「生きる力」と「地域力」をできるだけ早く回復させるためのお手伝いを続けていきたいと思っておりますので、今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。</p>

(活動のようす)

